

# AVIA MOTORSPORT

2021 MotoE World Cup

Hikari Okubo 大久保光

2021.5. 23 第2戦フランス 予選 10番手 決勝リタイヤ



FIM Enel MotoE World Cup(MotoE)第2戦はフランスのルマン・ブガッティサーキットで開催されました。ルマン 24 時間耐久に参戦経験のある大久保にとって、初めてのコースではありませんが、MotoEでの走行は初となり、マシンの状況を確認しながら慎重に走り始めますが、すぐにタイムアップして行きます。

雨の予選となり、通常は、1台でのタイムアタックでの予選方式が、参戦ライダーが12分間の予選に挑む方式となり、大久保は順調にタイムアップして行きます。ですが、ベストラップを記録した大久保がセクター1、2を綺麗にクリアした後に転倒者が出て黄旗が提示されます。この黄旗が出されたことで、大久保のベストタイムが無効となってしまいます。適応されたならば、2番手となる好タイムでしたが、記録されたタイムでは10番手となります。納得できないルールを押し付けられた形となりましたが、どうすることも出来ずにグリッドにつきました。

天候が回復、晴れとなった決勝レースでは、アジョ監督が「モーターを使うMotoEは、スタートがとても難しいのに、こんな素晴らしいスタートは見たことがない」と感嘆するほどのスタートダッシュで大久保は決めて、10番グリッドから一気にポジションを上げ、3コーナーでは5番手に浮上、その後も、次々と先行するライダーを捉え、遂に、首位に立つのです。が、次の瞬間、後続車に激突されてしまいます。避けることのできないアクシデントでリタイヤとなってしまいました。結果を残すことはできませんでしたが、予選で見た速さと素晴らしいスタートからの快進撃を見た大久保への評価は大きく高まることになりました。初挑戦のMotoE、2戦目の順応性に、大久保の力を認めさせるに十分な戦いを示したのです。

#### 大久保光

「ルマン、ポルドールと24時間耐久に参戦した経験があり、フランスのサーキットは、基本的に好きなのですが、長時間走ったというだけで、経験としては1度の参戦です。MotoEでの走行経験はなく、切り返し時の重さがあるために、走行経験で得た感覚が、そのまま生きるというわけではありませんでした。ですが、予選はウェット、決勝はドライと走行条件の変化に対応出来たのは、耐久を経験したおかげだったのかもしれない。

それに加え、参戦前にはバルセロナで、MotoGPライダーのジャック・ミラーとモト3の鳥羽海渡と、ミニバイクトレーニングが出来たこともプラスだったと思います。とても勉強になり、パッシングのタイミングなどを盗めたと思います。今回は、自分でも乗れていると思えたいし、この調子で行けば表彰台、上手く行けば優勝を狙えるとグリッドにつきました。追突されるまでは、予想通りの走りが出来ていました。結果は残りませんでしたが、手応えを感じる事が出来、自信になりました。

次戦のカタルニアは、初挑戦となります。出来る限りの準備をして、今度は結果を残せるレースが出来るように最善を尽くします」

※次戦カタルニア大会は、は6月6日カタルニアサーキットで開催されます。